



## 私

は在外研修以前にドイツ・ケムニッツ歌劇場に招へいされ「魔笛」(パバゲーノ役)に出演したりスウェーデンやドイツの音楽祭に出演したりと、すでにヨーロッパでの演奏経験がありました。ヨーロッパ文化であるオペラを現地で原語で演じたことは、それまで留学経験もろくになかった私にとって大変なカルチャーショックを受けることとなったのです。ヨーロッパ人の考え方や感情が理解できず、また音楽の面においては求められるものの質の違いを感じ、「これは何としてもこの地で生活し音楽を学びたい」と強く願うようになったのです。その結果、ありがたく平成九年度文化庁派遣芸術家在外研修員として留学させていただくこととなり、一年間ドイツで研修させていただきました。実際に生活することとなり、その国の言葉の言い回しの違いや物事の考え方、人間関係、宗教のあり方などいろいろの違いを体験し、音楽からだけでなく生活することからヨーロッパ音楽を理解することができました。また私の留学し

たベルリンは、ベルリンフィルをはじめ三つもの歌劇場がほとんど毎晩オペラを上演しており、すばらしい演奏を聴いて夜を過ごすことが多かったです。昼間は週二回の声楽のレッスンははじめドイツ語の発音法やオペラ演習、音楽作りのレッスンなどに費やし、一日中充実した研修生活でした。どれも日本では学ぶことのできない貴重なものばかりで、こうして学んだことは今の私にとって大きな財産となっております。

ありがたいことに、研修終了後も私は日本だけでなくドイツにも招へいされて「蝶々夫人」のゴロー役や「ヘンゼルとグレーテル」の魔女役等オペラに出演する機会に恵まれ何度か渡独しております。こうやって時々ヨーロッパの公演に出演しながらも活動の中心は日本として、自分の個性を生かしながら演奏活動の場を広げていき、総合芸術であるオペラを日本にもっと根づかせていきたいと思っております。

(平成九年度

文化庁派遣在外研修員(音楽))

## 私

がインターンシップ研修員に選んでいただいたのは、今から五年前のことです。

学校を卒業し、自立した収入を得るために会社に入った時期もありましたが、社会人としての責任が増えるとともに踊ることや離れる時間が多くなってきたこともあり、それまでの生活を捨てて踊りの道に飛び込んだ時期でもありました。レッスンをアルバイトの毎日を通す中で、さらに表現の幅を広げるために基礎となるレッスンを増やし、ダンス以外の多くの芸術作品に触れ、自分自身が表現する言葉となるものを増やしていくことを目的に研修員に応募しました。研修中は日々のレッスン以外にも積極的にワークショップ等に参加し、肉体が動くことに対しての新たな発見をしたり、ダンスの舞台を観る以外にも映画、絵画、書籍など、表現に関する多くのものを観ることができました。なかでもコンポジションクラスという振付法のクラスは音楽理論を基本にしていて、必然的に音楽の基礎も勉強することになったこと

は、作品を創ることだけでなく踊ることに大きく影響しました。いろいろなものを見た中で一番学んだことは、何事にも基礎があり、さらにその上にそれぞれの肉付けをしていくことが大切であり、その中から初めて強さ、優しさ、激しさ、弱さなどの表現ができるのではないかと思えます。研修後もどうしたら自分なりにそれを舞台で表現することができるのか試行錯誤していた中で昨年、芸術選奨新人賞をいただくことができたのは大きな出来事でした。今後一番大切なことを忘れずに舞台表現を追求していきたいと思えます。

時間的にも金銭的にも限度があった時期に研修員として学ばせていただいた一年間で、あれだけ多くのものを観たり勉強して吸収できたことは大変貴重な経験でした。今後このような研修員の制度が発展し、いろいろなことに挑戦できる機会が増えてほしいと思います。

(平成七年度文化庁芸術インターン

シップ研修員(舞踊))

## 研修生の感想

基礎も勉強することになったこと

●早川町赤沢伝統的建造物群保存地区（山梨県）

山村・講中宿／平成5年7月14日選定

山梨県南西部の山深い傾斜地に立地し、身延山から七面山に至る参道の宿場として発展したところである。参詣客の休憩や宿泊の世話、合力や荷背負業・籠人足等の仕事を村全体で対応して、大正期から昭和初期に最盛期を迎えた。また、江戸中期には幕府の御用林が置かれ、木材搬出の請負や杣・木挽職人あるいは大工仕事に加わるものも多かった。

保存地区は、旅籠屋や民家等からなる集落と、その周辺の畑や山林を含めた約一五・六haの範囲である。集落は中央の湧水地を境に、高地に立地する上村とやや低地にある下村に分けられる。上村は尾根伝いに延びる往還に沿って概ね短冊状に屋敷地が区画されて筋状に家並みが形成されている。一方、下村では傾斜のやや急な窪地一帯に等高線に沿った不整形な敷地割がなされている。敷地境の石垣は崖をほぼ垂直に切りとって自然石や割石を積み上げた伝統的な石積みになっている。軒下等に講中（参詣する信徒組織）のマネギ札を掲げている家屋も見られ、かつての繁栄ぶりを伝えている。

今なお講中宿として営業を続けている旅館が宿場の面影を残し、各戸には屋号の看板が復原されている。また、民家を改造した「赤沢資料館」を開館して、赤沢らしい歴史的環境と自然環境を活かしたまちづくりが行われている。

（文化財保護部建造物課 島田敏男）

編集後記

「アートマネージメント」という言葉を「ご存じでしょうか。簡単に言えば、文化施設の運営や芸術団体の活動などがより効果的に大きな成果をあげるために、企画制作、経理や組織管理等の管理業務、広報、マーケティング等の活動を行うことを指し、一般的にはまだ馴染みが薄い言葉かもしれません。

しかし、以前から我が国では、芸術団体の管理運営面での問題や、文化行政を担当する職員の文化的な資質などが芸術文化活性化の上での一つの課題であり、芸術家と経営者の視点を併せ持つアートマネージャーの育成は、我が国の抱える課題に対する有効な方策であると言われています。

「現代舞台芸術人材養成プラン」では、当然アートマネージメントのみならず、オペラ、演劇、舞踊

といった実演分野をもその対象としていますが、これら多様な分野での人材養成が行われることによって我が国の現代舞台芸術の総合的な振興が図られ、また、この特集がその一助になれば幸いです。

(H)

文化庁では、ホームページで、文化庁に関する情報を幅広く提供しています。ご意見、ご質問、文化庁月報の感想などを、ホームページのご意見欄や文化庁のウェブマスター宛へお寄せください。

ホームページアドレス  
<http://www.bunka.go.jp/>  
ウェブマスターメールアドレス  
webmaster@bunka.go.jp

文化庁月報 5月号

(通巻380号)

平成12年5月25日印刷・発行

編集—文化庁

〒100-8959 東京都千代田区霞が関3-2-2

発行—株式会社ぎょうせい

本社 〒104-0061 東京都中央区銀座7-4-12  
本部 〒167-8088 東京都杉並区荻窪4-30-16  
電話 編集 03(3571)2126  
販売 03(5349)6666  
URL: <http://www.gyosei.co.jp>

印刷所—㈱行政学会印刷所

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、筆者個人の見解であることをお断りいたします。

定価540円 本体514円 送料76円

年間購読料6,480円

本誌のご購読のお申し込みは、直接弊社の本・支社、あるいは最寄りの書店へお申し込みください。

広告の問い合わせ・申し込み先

㈱ぎょうせい営業部広告課  
電話03(5349)6657 (ダイヤルイン)  
©2000 Printed in Japan ISSN 0916-9849

本誌は本文用紙に再生紙を使用しております。